



つながり
繋

富岡 勝則

皆さんこんにちは。

10月も中旬を過ぎて朝晩はすっかり涼しくなり、ようやく秋めいてきました。市役所前の公園通りのけやきもうっすらと紅葉していて季節の移り変わりを感じます。日中も過ごしやすい気温で、スポーツや行楽に最適な季節です。そのような中、10月9日(日)に陸上競技場で、市民体育祭が盛大に行われました。当日はさわやかな秋空の下、各チームの皆さんが障害物競走や綱引き、年代別リレーなどさまざまなプログラムで汗をかき、家族のふれあいはもちろん、地域での親睦も深めることができたようです。最近では、なかなか選手が集まらないなどの理由で、このように市内の町内会が一堂に会して市民体育祭を実施している自治体は少なくなってきています。朝霞市でも町内会の役員の皆さんが選手集めにとても苦勞をされているという話を聞いています。しかし、

東日本大震災発生以来、地域コミュニティの大切さが見直されている中で、私はこのような行事を続けていくことの意義はととても深いと思っています。それは、市民体育祭に参加していただくこと自体が、災害時の訓練としても役立っているからです。当日会場に集まって競技に参加することは参集・誘導訓練につながります。また、参加者の食事をつくったりすることは炊き出しの訓練にもなっています。何より、終わった後の懇親会は、地域の親睦を深めることに大いに役立っていると思います。市民体育祭はスポーツの祭典ということで、体力づくりばかりに目が行きがちですが、ほかにも大切な要素がたくさん含まれています。当日は皆さんのテントを回らせていただきましたが、それぞれの地区で工夫を凝らして食事の準備をしていて、地域の皆さんで和気あいあいと食べていらっしゃいました。中には、大きな寸胴鍋で朝からカレーを煮込んでいる町内会もあり、子どもからお年寄りまで、皆さんで楽しそうに食べている姿が印象的でした。

このように、それぞれのテントの下では素晴らしい地域の繋がりが形成されています。今年は17地区の皆さんに参加をいただきましたが、来年はさらに多くの地区の皆さんに参加していただき、朝霞の地域コミュニティを大きく育てていきたいと思っています。ではまた。

朝霞市は男女平等を進めています

—市民意識調査結果から見えてきたこと⑧— 「理想と現実の働き方」

日本の女性の労働力人口をみると、20代では8割近くの方が働いていますが、その後30代で減り、40代で再び増えます。これは女性が出産や育児を機に仕事をやめ、育児が終了すると再び働き始めるという状況を示しており、そのグラフがローマ字のMの形をしていることから「M字カーブ」と言われています。

市民意識調査における女性の回答をみても、理想的な女性の働き方については「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」が20.1%で最も多く、次いで「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」が19.9%となっていますが、現実での女性の働き方は「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けている(いた)」が25.6%で最も多くなっています。

一方、男性の回答では、理想的な女性の働き方について「子どもができるまで仕事をもち、子どもができたら家事や子育てに専念する」が19.0%で最も多く、男女間の意識の違いがうかがえます。

女性が社会的、経済的、精神的に自立して生きていくことを応援するためには、就労環境を整備するとともに、ライフステージに応じた支援や相談事業の充実を図ることが必要であると考えられます。

* 「朝霞市男女平等に関する市民意識調査」は平成22年6月に実施しました。
* このコラムは、「朝霞市男女平等推進事業企画・運営協力員」との協働により掲載しています。

問/人権庶務課 内2255 ☎463-2697

ひとの推移

人口	13万1,403人 (+ 58人)	世帯数	5万9,512世帯
男	6万7,099人 (+ 49人)		(+ 17世帯)
女	6万4,304人 (+ 9人)	平成23年10月1日現在()内は前月比	

女性に対する暴力をなくそう！

11月12日(出)～25日(金)は「女性に対する暴力をなくす運動」実施期間です。

暴力は、その対象の性別や加害者、被害者の間柄を問わず、決して許されるものではありません。特に、配偶者等からの暴力、性犯罪、売買春・人身取引、セクシュアル・ハラスメント、ストーカー行為等女性に対する暴力は、女性の人権を著しく侵害するものです。

女性に対する暴力を根絶し、男女が平等な社会の実現に向け、日頃の生活を見直すとともに、積極的に取り組んでいきましょう。

問/人権庶務課 内2255
☎463-2697